

学校教育目標
自らの夢をもち
夢に向かって
心豊かにたくましく生きる子



学校だより第10号
学校経営方針
「自立貢献」
羽生市立三田ヶ谷小学校
令和2年12月25日



冬休みだからこそ、親子の対話を増やしましょう！

羽生市立三田ヶ谷小学校
校長 細村 一彦

本日、2学期終業式を行いました。今学期は、行事で活躍した子どもたちの姿や日々教室で見せる真剣な学びの顔など、心に残るシーンが数多くありました。2学期も、保護者や地域の皆様から学校に協力していただき、子どもたちの成長を助けていただきました。心より感謝申し上げます。

以前新聞に、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大学に通うことができない大学生が詠んだ川柳が掲載されていました。例えば、「タイピング 上達したが 口下手に」「つながらぬ ネット回線 人付き合い」などは、遠隔授業への戸惑いや、コミュニケーションの取りづらさがよく表れていると思いました。

一方、目を引いたのが、制約が多い世の中だからこそ、自分を見つめ直したという句です。例えば、「向き合った コロナの期間 無駄じゃない」「自粛中 やりたいことが 見つかった」など、自分や将来について考えることができたこと、暗くなりがちでコロナ禍を前向きにとらえる姿勢に感心しました。

以前であれば、「3密」という言葉は無く、学校でも地域でも、家族以外の方と気兼ねなく過ごす機会はずっとありました。現在は、「3密」を気にして、人との距離を考えて接することが求められます。このことは反面、先ほどの川柳にもあるように、各家庭で自分のやりたいことを見つけ、それをする時間が増えるということでもあります。

子どもがやりたいことと言えば、ゲームやテレビを思い浮かべるかもしれません。しかし、冬休みだからこそ、親子の対話時間を増やしてはいかがでしょうか。「最近では、親子の対話が減少した」という声をよく聞きます。冬休みは、様々な伝統的な行事やお手伝いが多い年末・年始です。まずは、行事やお手伝いを通して、親子の対話を増やすきっかけにはいかがでしょうか。

私事になりますが、私が小学生の頃、冬休みの様々な行事や手伝いを通して親と対話をしたことは、今でもはっきりと覚えており、その時に教わったことは、今でも役に立っております。保護者の方も同様の経験をおもちかと思われまます。

お子様が小学生の時の親子での対話は、お子様の今後の人生にとって、数十年たっても、有意義なかけがえのない時間になります。

さて、いよいよ冬休みが始まります。クリスマスプレゼントやお年玉などにより、子どもたちは気持ちの上で開放的になりがちです。本人が気づかないうちに様々な事件や事故に巻き込まれてしまったり、取り返しのつかない状態になってしまったりという危険をはらんでいる日々でもあります。ぜひ、御家庭や地域で、子どもたちの見守りをお願いいたします。



【マスクの寄贈】

小島繊維株式会社様から、子ども1人につき「布マスク2枚」を寄贈していただきました。新型コロナウイルス感染症防止対策として、有効に活用させていただきます。誠にありがとうございました。